

IPUHS

vol.011
2024/03

通信

＼キャンパスライフ再始動／



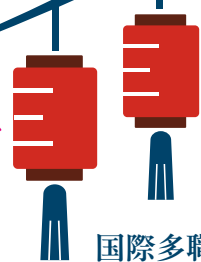
■国際多職種協働実習・JASSO海外留学支援制度(協定派遣)プログラム
台湾・高雄医学大学(KMU)訪問実習

■国際多職種協働実習
カタール学会参加報告

■大学院
令和6年度より大学院が生まれ変わります!

■付属病院
リハビリテーション科の先進的な医療の取り組み

台湾



国際多職種協働実習・JASSO海外留学支援制度(協定派遣)プログラム

台湾・高雄医学大学(KMU) 訪問実習

2019年からの新型コロナウイルス感染症によるパンデミック環境が収まり、2022年度より台湾・高雄医学大学(Kaohsiung Medical University)との国際交流活動が再開され、2023年1月には高雄医学大学の学生10名が本学へ5週間来校し、本学の見学と共に日本の寒い冬を体験していただきました。その2か月後の2023年3月には本学の学生6名が台湾・高雄医学大学を訪問し、病院・施設見学や授業見学などの研修や自由時間での学生交流など、様々な活動を行ってきました。

今回、2023年3月(10日間)に台湾・高雄医学大学を訪問した様子をご紹介します。



一緒にダンス



会場での自由交流風景



高雄医学大学の作業療法学科の教員・学生との記念写真風景

1. Welcome Partyへの参加
高雄医学大学健康科学院主催のWelcome Partyが開催され、教員・学生相互の交流(食事やダンスパフォーマンスなど)が行われ、楽しい時間から始まりました。
本学の木口尚人先生(作業療法学科助教)の呼びかけで、会場にいる皆さん(学生・教員)と一緒にダンスをすることに、高雄医学大学の教員・学生さんともノリノリで参加いただきました。
会場での食事をしながらの交流や壇上での記念写真など、とても楽しい時間を持つことができました。



健康科学院長、作業療法学科長との記念写真風景

2. 高雄医学大学での 研修プログラム

研修プログラムでは、講義への参加、車椅子の「解体」実習（業者施設）、附属病院への臨床見学、地域高齢者「楽齡教室」への参加、高雄市内や近隣市にある地域デイケア施設・病院・障害者施設、輔英科技大学などへの訪問による施設見学や交流を行い、それぞれの施設や病院の概要、施設環境、各スタッフの役割などについて学びました。



1. 講義への参加 2. 地域デイサービス施設への訪問 3. 高雄医学大学の学生と一緒に車いすの解体実習 4. 高雄医学大学での楽齡教室への参加 5. 輔英科技大学への訪問
6. 台南市の障害者福祉施設への訪問



3. 学生自由交流

土・日など研修休日には、高雄医学大学の学生さんと一緒に様々なところへ出かけ、観光したり、食事したり、買い物したり、台湾で有名な「夜市」や夜景を見に一緒に行くなど、「英語」「中国語」「日本語」など、様々なコミュニケーション言語を用いて、とても多くの交流活動が行われました。



4. Farewell

最終日には、高雄医学大学の各学科長より修了証の授与をしていただきました。その後、高雄医学大学の学生さんと最後の交流を行い、この研修で再会した台湾の「友人」や新しくできた多くの台湾の「友人」と最後の時間を過ごしました。

2023年3月に行われたこの台湾実習(国際多職種協働実習)では、台湾における高雄医学大学での講義への参加や関連病院、地域でのデイサービスや障害者福祉施設での見学を行い、また多くの学生同士の自由交流など、台湾の友人との多くの時間を共有し、貴重な経験を持って帰国することができました。



カタール学会参加報告



2023年11月4日～11月11日の日程で国際多職種協働実習が実施されました。今年度の実習では、学部生6名と専任教員養成課程の受講生3名が、カタール大学で開催された多職種協働実践および教育の国際会議であるAll Together Better Health Conference ATBH XIに参加しました。

この国際会議は2年に1度の開催で、これまで日本、オーストラリア、スウェーデン、英国、カナダ、アメリカ、ニュージーランドで開催され、今回初めての中東での開催となりました。今回のテーマは、カタールの名産品である真珠に因んで「コラボレーション文化の育成：知恵の真珠の共有 (Sharing Pearls of Wisdom)」で、ヘルスケアに関わる専門職間連携についてのベストプラクティスの紹介やワークショップ、専門職間ディベートなど様々な企画に、36か国から約600人が参加しました。

学部生6名の今回の実習のメインイベントは、International Healthcare Team Challengeへの参加でした。これは学生対象のチャレンジ企画で、各国から参加する医療従事者の学生が7～8人程度のチームを組み、各々のチームがメンターのサポートを受けながら複雑な医療ニーズをもつ患者へのチームアプローチの計画作成に取り組み、会議最終日に計画内容をプレゼンテーションするというものです。本学の学生も4グループに分かれてそれぞれのグループで課題に取り組みました。

会議開催前に行われた事前のオンラインミーティングや初日のグループディスカッションでは、慣れない英語でのコミュニケーションに戸惑い、「ディスカッションに全然



ついていけなかった」「一言も発言できなかった」と肩を落としていた学生たちでしたが、翻訳アプリの駆使とチームメンバーの温かいサポートもあって次第にチームの一員として参加できるようになり、会議最終日のプレゼンテーションはどのチームも大変素晴らしいものでした。

また、このチャレンジを通して様々な国籍や専門領域の学生さんたちと交流を深めることができたのも大きな収穫で、最終日の夜はチームメンバーと食事にてかけ、別れを惜しみつつ楽しい時間を過ごしたようです。

学生たちはグループワークを通して、国ごとの医療制度や文化の違いについても学ぶことができましたが、同じ目標に向かっていくために、自分と異なる立場にある相手を理解しようとする姿勢の大切さを強く感じたそうです。

今回の実習の経験が、今後の専門職としての成長の糧となることを期待しています。



令和6年度より大学院が生まれ変わります！

茨城県立医療大学保健医療科学研究科では、令和6年度より本学大学院の博士前期課程（修士課程）において、複数の領域に関連する複雑化した保健医療分野の課題の克服と今までにない新たな価値を生み出すことができる分野横断的な人材の育成を強力に推進するために、従来の3専攻を「保健医療科学専攻」の1専攻に統合します。あわせて、職種に限定されることなく、保健医療分野で活躍を望む幅広い学生の受入れに対応するため、医科学領域を新設しました。

特徴1 分野横断的な課題解決能力を身につけた人材の育成

博士前期課程では、専攻を「保健医療科学」に統一することにより、高度化・複雑化している保健医療の分野の課題に対して、複数の領域にわたる高度な専門知識を身につけた学問領域横断的の共創と多職種協働を推進する人材の育成を行います。

特徴3 職種に限定されず、幅広い分野の修学や研究が可能

博士前期課程は新たに「医科学領域」を新設して、職種に限定されることなく、保健医療分野で活躍を望む多くの学生が修学できる教育研究体制を整えました。本学にある高度な研究機器を用いた臨床研究や医科学の基礎研究など、幅広い領域の研究指導が可能です。また、短期大学、高等専門学校、専修学校などを卒業している方でも、出願資格審査を受けることで大学院を受験することができます。

特徴2 夜間にリモートでも受講可能な講義

講義はおもに平日の夕方から夜間に開講され、社会人でも修学しやすくなっています。また、日中は研究に打ち込んで夜間に講義を受講することもできます。講義の多くはリモートで行われ、全国どこからでも受講可能です。



茨城県立医療大学 保健医療科学研究科 大学院 募集

説明会 動画配信 (全日程F/8/28日)

さらなる発展をめぐるあなたに

修士を1専攻にして学問領域横断型へ
出身専門分野を問わず、幅広い人材募集
全国どこからでもWEB受講可能

分野横断的な課題解決力 高度な専門知識 幅広い人材の育成
最新の設備・機器 高度な研究環境 学問領域横断的な研究 学問領域横断的な研究 学問領域横断的な研究
高度な研究環境 学問領域横断的な研究 学問領域横断的な研究 学問領域横断的な研究
高度な研究環境 学問領域横断的な研究 学問領域横断的な研究 学問領域横断的な研究

TEL:029-840-2111

博士前期課程				博士後期課程	
修業年限 2年				修業年限 3年	
保健医療科学専攻 定員18名				保健医療科学専攻 定員5名	
看護学領域	理学療法学・作業療法学領域	放射線技術科学領域	医科学領域	看護学領域	理学療法学領域 作業療法学領域 放射線技術科学領域
取得できる学位				取得できる学位	
修士 (看護学)	修士 (理学療法学) または 修士 (作業療法学)	修士 (放射線技術科学)	修士 (医科学)	博士 (保健医療科学)	

※看護学領域では、専門看護師（小児看護・老年看護・精神看護）を養成するCNSコースあり。
※放射線技術科学領域では、医学物理士を養成するMPコースあり。



リハビリテーション科の先進的な医療の取り組み

付属病院のリハビリテーション科診療

リハビリは、病期でとらえると急性期、回復期、生活期と幅広く、そして対象は、脳卒中、運動器疾患、切断、神経筋疾患、脊髄損傷、循環器疾患、呼吸器疾患、がん、認知症、フレイル・サルコペニア、小児疾患、糖尿病など多くの疾患・障害・病態が含まれます。付属病院のなかの回復期リハビリ病棟では、脳卒中の患者さんを中心に、障害者施設等一般病棟では、脊髄損傷や運動器疾患、神経筋疾患の患者さんを中心にリハビリ治療に取り組んでいます。リハビリの重要性は誰もが知るところですが、その理由をご存じでしょうか？ ベッド上で安静にしていると1日に筋肉量が0.5〜2%減少します。筋肉だけでなく、骨、心肺機能、消化器機能、メンタルまで低下してしまいます（これらを総じて「廃用症候群」と呼びます）。したがって、早くからリハビリを行うことで、不要な機能低下を防ぎつつ、歩く練習や日常生活動作の訓練をすることが重要であるといえます。

本稿では、付属病院で取り組んでいる先進的なリハビリ治療について取り上げます。

麻痺を良くするリハビリ治療

古くから神経筋促通手技というものはいくつかありましたが、その有効性を示せずにいました。そこで、2000年から川平が考案したのが「促通反復療法（川平法）」です。目標の神経路への興奮伝導と反復を重視し、神経路の強化が神経路への興奮伝導によるシナプス伝達効率の向上、組織的

体幹への促通反復療法



体幹回旋の運動パターン

体幹側屈の運動パターン

結合強化の過程を経る理論に基づいています。多くの施設で研究がなされ、エビデンスの高い治療手技として知られています。

脳卒中などにより麻痺が生じた場合に、神経路の組み替えが行われている時期が効果的であることから、発症早期が有効であり、回復期に集中して行うことで大きな効果が得られると考えられています。上肢、手指、下肢、体幹といった促通手技がそれぞれ体系化しています。

また、電気刺激を併用して筋肉の動きを同時に誘発するとさらに麻痺の改善効果があることが証明されています。振動刺激を加えると痙縮（筋肉のツバリ）を軽減して、この促通手技が施行しやすいことも知られています。

なお、手技の習得には少し時間がかかります。療法士へは、理論を知ったうえで、約2週間の実技講習をお勧めしています。この実技講習はアメリカや韓国の病院でも取り入れてもらっています。

医療現場で使われるロボット

リハビリ分野でもロボット技術の進化は目覚ましく、さまざまなタイプのもが開発されています。自立支援ロボット、運動支援ロボット、介護支援ロボットに大きく分類されます。運動支援ロボットのなかでも体に直接装着して歩行補助を行う装着型サイボーグ「HAL」は広く使用されています。

現在開発に取り組んでいるのが、装着型の外骨格型ロボットである「マッスルスーツ」で、人工筋肉を用いて、引張力を発生させ、腰の負担を大幅に軽減することができ、改良型では、立ち上がり動作やも上げを容易にしてくれます。筋力や体力の落ちた方には有効だと思われ、介護支援ロボットとして開発されましたが、現在は運動支援ロボットとして改良され、多施設で共同研究が進められています。

リハビリロボットの長所は、①早期からの訓練に導入可能

であること、②訓練の量と質を増やすことができること、③患者さんの状態に合わせて補助の調整ができること、が挙げられます。技術革新にリハビリ治療がついていくこともっとも効果的なロボット開発ができると思います。

最後に

超高齢化社会を受けて、リハビリ医療へのニーズはますます大きくなっています。再生医療が脊髄損傷や脳卒中治療に現実味を帯びていけばなお更です。本稿では、誌面の都合により、ごく一部しかご紹介できませんが、機能的電気刺激（FES）、下肢装具、ボツリヌス療法などの薬物療法、経頭蓋磁気刺激、経頭蓋直流電流との併用療法がより効果的であることも分かっています。

機能改善と能力向上を目指して、リハビリ治療のプログラムを実際に管理・指導するのは医師や療法士などの医療者です。当院では医療のスペシャリストとして安全性の確認と最新の知識の吸収に日々努めております。また、多職種連携チーム医療によって、患者さんの回復および自立支援を第一に考えて実践しております。医学・医療の進歩のためには臨床研究が必要になります。臨床研究の発信を随時行って参りますので、よろしければ研究への参加のご検討をお願いいたします。そしてお気軽にご相談ください。

改良型マッスルスーツ



立ち上がりタイプ

もも(大腿)上げタイプ

ウクライナから医師が来学し、ロボティクストレーニングについての意見交換を行いました

オレクサンドル・クリク医師は、ウクライナ国内で軍事侵攻により負傷した兵士や市民らに対して治療を行っています。この度は、現地でのロボティクストレーニングの臨床への導入に向けて知見を深めるために6月30日に本学を訪問されました。

水上昌文教授（理学療法学科）、河野豊教授（医科学センター）から本学・付属病院におけるリハビリテーションやロボティクストレーニング、臨床研究についての説明を行ったのち、医師の質問に答えながら意見交換を行いました。



「モロモロの会」を開催しました

「モロモロの会」は、本学看護学科教員と付属病院との協働で実施している、地域で生活する難病患者さんとそのご家族のためのサロンで、難病の診断を受けた方であれば、どなたでも参加できます。2023年度は4回（7月・9月・12月・3月）開催しました。

このサロンには、本学教員・学生のほか、難病相談支援センター相談員、県や市の保健師も参加しています。当日参加した看護学科4年生からは、「難病患者さんとの関わりを通して、『難病』と診断されてからでも日々挑戦し、楽しみながら生活している方が多い印象を受けました。この会は私にも元気を与えてくれる場所でした。」という感想を聞くことができました。

創療祭を開催

10月21日（土）、22日（日）の二日間にわたり大学祭「創療祭」を開催いたしました。4年ぶりの本格的な開催となった今年の創療祭のテーマは「Power of smile ～みんなの笑顔は無量大～」。これには、ようやくマスク無しの生活に戻りつつある今、これまでマスクの下に隠れていた笑顔をみんなに振りまき、活気あふれる創療祭をつくりあげたいという実行委員会の気持ちが込められています。実行委員を中心に学生全員が協力し合い準備してきました。

在学生の中には、高校時代に新型コロナによって、文化祭を経験することができなかった学生もいます。そんな4年分の思いをこの創療祭の2日間にぶつけ、大学関係者だけではなく、地域一般の方にも楽しんでもらえる創療祭を作り上げました。



県立医療大学トピックス

令和5年度にあったできごとをピックアップしてご紹介します。

「あみスポーツフェスタ2023」にて 体力測定を実施しました

10月1日に阿見町総合運動公園で行われた「あみスポーツフェスタ2023」に本学教員と理学療法学科の1年生から3年生の学生が参加し、小中学生の体力測定を行いました。

学生が主体となって、子供たちの姿勢や柔軟性・バランスを測定した後、その結果をもとに、本学教員がスポーツ障害予防の観点からストレッチやトレーニングのアドバイスをを行いました。普段からスポーツをやっているというお子さんも多く、真剣に話をきいている姿がとても印象的でした。



学生サークル・車いすバスケットボールチーム ROOTs（障害者スポーツ研究会）が全国大会で 優勝しました

9月18日・19日、日本財団パラアリーナで開催された「第21回全国車いすバスケットボール大学選手権大会」にて、本学の車いすバスケットボールチームROOTs（障害者スポーツ研究会）が優勝を飾りました。また、大会MVPも本学チームから選出されました。ROOTsは、ほぼ全員が大学生になってから車いすバスケットボールを始めたというメンバーで構成されていますが、日々練習を重ね、今回本学として5年ぶりの優勝を果たしました。

作業療法学科3年生が「福祉機器コンテスト2023」にて優秀賞を受賞

8月25日・26日に東京大学で開催された「福祉機器コンテスト2023」において、本学作業療法学科3年生のグループが作成した自助具「もけもけ君5号」が優秀賞を受賞しました。

「もけもけ君5号」は、足腰に問題を抱え、立ち座りが苦手な方の畑仕事を支援するために、立ったまま種植えを行うための自助具です。学生たちが実習中に作業療法介入を検討している中で得たアイデアをもとに、授業で学んだ3Dプリンターを使用して開発しました。

コンテストでは、農作業の支援という地域性のある着眼点と、実際に患者さんと接したことによる気づきが開発に繋がった点が高く評価されました。



令和5年度新規着任・昇任教員

久保田 茂希	4月1日着任 (教授 作業療法学科)	吉田 瑛紀	4月1日着任 (講師 附属病院)
ニューバリーダニエル	4月1日着任 (教授 人間科学センター)	矢野 聡子	4月1日着任 (助教 看護学科)
井田 博史	4月1日着任 (教授 人間科学センター)	高橋 将斗	4月1日着任 (助教 放射線技術科学科)
松元 秀次	4月1日着任 (教授 医科学センター)	笠井 久美	4月1日昇任 (准教授 看護学科)
井出 政行	4月1日着任 (教授 医科学センター)		

令和5年度定年退職教員 ～長い間、本当にありがとうございました～



27年通い続けし医療大 窓の筑波嶺むねに刻まん

様々な世の移り変わりの中、比較的落ち着いた環境で教育・研究・社会活動に打ち込むことができ感謝しています。ここ10年は多職種連携教育を担当し、多くの教職員及び全学科の学生さんたちとの接点を持ったこと、国内外でもこの分野での新たな交流ができたことは思いがけない収穫です。研究指導においては学生ともども産みの苦しみと喜びを味わえました。今後の皆様のご発展と、グローバルヘルスが実現されることを祈っております。

看護学科 教授
加納 尚美

誰もみな今あることが尊ばれる世界を作る吾の心に

開学30周年記念事業準備始動!

本学は教育・研究・地域社会貢献をミッションとし、1995年4月に開学し第1期生を向かい入れました。さらに、社会的な要請に応じて高度の医療専門職等を養成すべく大学院保健医療科学研究科博士前期課程・後期課程、助産学専攻科、認定看護師教育課程、専任教員養成講習会を開設し、多くの卒業生・修了生を社会に送り出し、地域とともに歩んできました。

2025年には開学30周年を迎えます。これを記念した行事の企画運営を行うため、開学30周年記念事業実行委員会を設置いたしました。現在在籍する学生・教職員はもちろん、同窓生、名誉教授をはじめかつて本学で教鞭をとられた先生方、本学に勤務された職員方、そして地域の皆さまとの交流・親交を深める貴重な機会となるような企画運営に努めて参ります。

右に、委員会の構成員を紹介します。懐かしいお名前を見つける方もおられるかと思えます。

本事業の具体的な企画・内容については、今後、広報等でアナウンスして行きます。ぜひ、定期的に本学ホームページ・広報をチェックし、アイデアやご意見をいただければ幸いです。多くの皆様とお会いできることを、楽しみにしております。

開学30周年記念事業実行委員会委員長
阿部 慎司

【開学30周年記念事業実行委員会 委員(2023年度)】

副学長	阿部 慎司(委員長)	
学生部長	齋藤 さわ子	
医科学センター	教授	桜井 直美
看護学科	教授	富田 美加
理学療法学科	准教授	橘 香織
看護学科	助教	阿部 尚美
理学療法学科	助教	柴田 聡
作業療法学科	助教	真田 育依
放射線技術科学科	助教	安江 憲治
人間科学センター	講師	海山 宏之
医科学センター	准教授	角 友起
事務局	総務課長	岡崎 一裕
	教務課長	岡本 博
	総務課副主査	石塚 紀夫
	総務課係長	広瀬 憲一
	総務課係長	会田 直美
	総務課主任	北島 知明
	教務課主事	恒吉 颯太

茨城県立医療大学同窓会

藝游會

Alumni Association

同窓会「藝游會」の活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝いたします。2023年6月10日に、出席者10名にて定期総会を開催いたしました。議事録は「藝游vol. 23」に掲載し、公開しております(<https://www.ipu.ac.jp/for-alumni/alumni-association-newsletter/>)。

◆会報「藝游vol. 23」の公開

会報「藝游」は大学ホームページからご覧になれます。「藝游vol. 23」より、誰でもアクセスできるようにパスワードなしでの公開となりました(定期総会にて承認を得て公開方法を変更いたしました)。クラス幹事が工夫を凝らし、4クラス分のクラスページを作成していただきました。ご協力有難うございます。卒業生だけでなく在学生にとっても興味深い内容となっておりますので、QRコードよりアクセスし、是非ご覧ください。



◆第8回(令和4年度)卒業生交流セミナーの開催報告

令和4年度の卒業生交流セミナーは、作業療法学科が担当し、退職される先生方の最終講義をZOOM配信いたしました。ZOOMへの参加者は延べ152名となり、お世話になった先生方の最終講義を遠方でも受講できるということで、大変好評でした。



藝游會より、感謝と先生方のご健康を祈念し、記念品を贈呈いたしました。

◆寄付事業「つなげよう！ IPUHS支援基金プロジェクト！」

学生の経済的影響に関する支援「つなげよう！ IPUHS支援基金プロジェクト」では、2023年11月29日現在、6,257,904円のご寄付を賜り、残金は797,904円です。今後とも継続していきますので、藝游會ホームページ(<https://geiyukai.com/>)をご覧ください、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

◆藝游會の在学生支援事業の報告

在学生支援事業として、附属図書館に国家試験対策図書を寄贈しております。2023年度は28冊を新規購入いたしました。寄贈しました図書について、2022年度の貸出実績は延べ274件でした。学生の皆様に有効に活用していただければ、幸いです。また、各学科の事情に応じて、国家試験対策業者模試費用やPCR検査費用の支援を行いました。

お問い合わせ

E-mail: geiukaigrad@ipu.ac.jp (藝游會事務局)
会長 橘 香織 (PT1期生) 茨城県立医療大学理学療法学科准教授

キャリア支援センター

今年度の活動報告

今年度は充実したキャリアガイダンス等を実施することができました。例年3年生の春に開催している看護学科の就職セミナーは、学生の要望により、半年早めて3年生の夏に開催しました。また、作業療法学科の就職説明会は、昨年までコロナ禍のためオンラインで実施しておりましたが、今年度は対面で開催しました。放射線技術科学科は、企業セミナーの他、医療機関の就職セミナーを開催し、質問がしやすい座談会形式で実施することができました。さらに、令和元年以降コロナ禍で中止となっていた病院見学バスツアーを再開しました。4年ぶりの病院見学は県北・県央地域で企画し、(株)日立製作所 日立総合病院(日立市)と、ひたちなか総合病院(ひたちなか市)を見学させていただきました。

◆日立総合病院見学の様子

日立総合病院では全体で説明のあと職種別に見学を行いました。看護部門では三次救急病院としての役割や、年間6,000台以上救急車を引き受けていることから、迅速な対応や処置を行うための患者の移動についても見学させていただきました。リハビリ部門では普段行っているリハビリや、地域への支援活動について教えていただきました。また、自動車運転のシミュレーターや、50mもある歩行路、入浴施設等を見学させていただきました。



お問い合わせ 及び就職相談 申込先

茨城県立医療大学キャリア支援センター
Tel. 029-840-2109 E-mail: career@ipu.ac.jp
業務時間: 8:30 ~ 17:15 (土日、祝日を除く)

◆ひたちなか総合病院の見学の様子

ひたちなか総合病院でも全体の説明のあと、部門別で見学がありました。看護部門ではオープン形式で壁がない特徴的なスタッフステーションの様子を見学させていただき、さらに今年入職した医療大学卒業生の看護師に、働いている様子を伺うことができました。リハビリ部門では、病院のリハビリ室の他、屋上の庭園や近隣の駅や公園、お店などを利用しながら自立に向けたリハビリを行っている話を伺うことができました。





☕ Coffee Break

「医療の勉強をするには落ち着いた環境だし、とにかく良い大学よ。」
 母親の友人の勧めで、後期試験の出願先を医療大に決めた高3の冬。しかし、センター試験（現：大学入学共通テスト）の成績が振るわず足切りにあっけし、当時は、医療大の門をくぐることにすら叶いませんでした。
 それから15年後。医療大で働くチャンスに恵まれ、不思議な縁を感じながら茨城での生活を満喫しております。月並みな言葉ですが、「人生は、どこで何が起こるか分からない」ものですね。
 今年からは広報の仕事にも携わっております。私自身も医療大の素晴らしいところを探して、アンテナを張り巡らせる日々。今後は、ホームページも刷新される予定ですし、SNSでの情報発信も随時行っております。医療大を知らない方々にも「医療大に行ってみよう」と思ってもらえたら幸いです。また「行って良かった」と心から思える場所になるよう、大学を盛り上げて行けたらと思います。

理学療法学科 助教 瀬高 裕佳子



茨城県立医療大学 IPUHS通信 vol.011

発行月：令和6年3月

発行：茨城県立医療大学

問合せ先：茨城県立医療大学
 〒300-0394
 茨城県阿見町阿見4669番地の2
 Tel. 029-888-4000
 Fax. 029-840-2301

本誌は年1回発行しております。本誌に対するご意見ご要望を是非お聞かせください。

☑ shomu@ipu.ac.jp



茨城県立医療大学公式Webサイト
<https://www.ipu.ac.jp/>

茨城県立医療大学 広報 X (旧Twitter)
@ipuhs_publicity



茨城県立医療大学 広報 Instagram
[ipuhs_publicity](https://www.instagram.com/ipuhs_publicity)

卒業生の方へ

卒業生との交流会等の企画・開催、大学情報を発信するため、勤務先や住所に変更があった時は、必ず電話又は書面もしくは本学ホームページに掲載している「卒業生連絡先等調査」入力フォーム (<https://www.ipu.ac.jp/for-alumni/contact-for-nurse/>) により、お知らせください。



令和5年度 茨城県立医療大学入学式
保健医療学部・助産学専攻科・保健医療科学研究科

令和5年度 茨城県立医療大学
入学式